200830046A

厚生労働科学研究費補助金

エイズ対策研究事業

沖縄県における男性同性愛者への HIV 感染予防介入に関する研究

平成 20 年度

総括・分担研究報告書

研究代表者　加藤　慶

横浜国立大学

平成 21 (2009) 年 3 月

厚生労働科学研究費補助金

エイズ対策研究事業

沖縄県における男性同性愛者への HIV 感染予防介入に関する研究

平成 20 年度

総括・分担研究報告書

研究代表者　加藤　慶

横浜国立大学

平成 21 (2009) 年 3 月

研究班員名簿

研究代表者	
加藤　慶	横浜国立大学大学院環境情報研究院
研究分担者	
健山正男	琉球大学大学院医学研究科
研究協力者	
長谷川博史	日本 HIV 陽性者ネットワーク・ジャンププラス代表
河邊宗知	東海医療科学専門学校専任講師
渡辺大輔	千葉大学教育学部非常勤講師
柳田敏孝	なんくる
金城　健	なんくる
松澤仁璽	なんくる
石丸径一郎	国立精神・神経センター外来研究員

目　次

総括研究報告

沖縄県における男性同性愛者への HIV 感染予防介入に関する研究　・・・　2
研究代表者　加藤 慶（横浜国立大学大学院環境情報研究院）

調査研究報告

1. 沖縄県の概況　・・・　6
研究代表者　加藤　慶（横浜国立大学大学院環境情報研究院）
2. 沖縄県における当事者グループの組織化と
HIV 感染予防活動・ケアに関する研究　・・・　8
研究代表者　加藤　慶（横浜国立大学大学院環境情報研究院）他
3. 沖縄県のゲイコミュニティに関する研究　・・・　14
研究代表者　加藤　慶（横浜国立大学大学院環境情報研究院）
4. 男性同性愛者の交流場所に関する都道府県別規模についての研究　・・・　18
研究代表者　加藤　慶（横浜国立大学大学院環境情報研究院）
5. 沖縄県における非常設型スポーツ大会における参加者の居住地調査・・・　21
研究代表者　加藤　慶（横浜国立大学大学院環境情報研究院）
6. 沖縄県ゲイコミュニティにおける男性同性愛者の性行動　・・・　24
及び HIV 検査環境に関する調査
研究代表者　加藤　慶（横浜国立大学大学院環境情報研究院）
7. 沖縄県で生活する男性同性愛者のライフストーリー研究　・・・　37
研究代表者　加藤　慶（横浜国立大学大学院環境情報研究院）

研究分担報告

MSM 当事者団体「なんくる」との協同による
医療アクセス不安の軽減に関する研究　・・・　54
研究分担者　健山正男（琉球大学大学院医学研究科）

研究成果刊行物一覧　・・・　56

印刷発行物　・・・　57

総括研究報告

沖縄県における男性同性愛者へのHIV感染予防介入に関する研究

（課題番号：Ｈ２０－エイズ－若手－０１２）

研究要旨

非大都市圏である沖縄県において、男性同性愛者の当事者グループである「なんくる」を組織化し、沖縄県における男性同性愛者へのHIV感染予防介入を実施した。この予防介入活動は、当事者による予防啓発イベントの開催と、予防啓発資材の開発、そして配布を中心に実施した。

また、沖縄県のゲイコミュニティの特徴を把握し、予防介入の基礎資料とすることを目的に、1)性行動及びHIV検査環境に関する量的調査の実施、2)沖縄県で生活する男性同性愛者からのライフストーリーの聞き取り調査の実施、3)沖縄県のゲイスポットの規模調査、4)沖縄県のゲイコミュニティの参与観察を行った。研究初年度となる平成20年度においては、これらのHIV感染予防活動と調査の実施には、多くの人材・社会資源が必要となるが、非大都市圏であり、かつ離島県である沖縄県においては、県内ですべてを調達することは極めて困難であり、東京都や大阪府などの大都市圏におけるHIV感染予防に関する人材・社会資源を活用し、非大都市圏である沖縄県を支える必要があることが示唆された。

A. 研究目的

沖縄県は、平成19年の新規HIV感染者・AIDS患者の報告数が、東京都に次いで全国第2位（2.34人/10万人）と、極めて高い数値を示しており、その82.6%が同性間性的接触を理由とするものであった。これまで、大都市圏を対象に、その社会的背景と予防情報の提供に関する研究は行われてきたが、沖縄県のような非大都市圏を対象にした研究は行われていない。なぜ沖縄県において、このような現象が発生しているのか。その社会構造の特性はいかなるものか。そして、どのような情報提供が予防啓発に効果的であるのか。これらの事柄は明らかとなっていない。本研究は、この点を地域の拠点病院と協力しながら、同性愛者コミュニティにおけるHIV予防啓発ネットワークを構築し、検討するものである。

B. 研究方法

地域の同性愛者当事者の主体性を重視し、信頼関係の構築をはかり、地域の同性愛者コミュニティに根ざした活動を展開するため、PRAにより研究を行う。PRAは、地域住民が自らの生活知識や状況を共有し、高め、分析し、さらに計画し、行動し、評価することを可能にする方法である。研究者によってトップダウンに研究を行うのではなく、地域住民自身に参加してもらうことで参加意識を高め、自身の能力開発、すなわち当事者による地域力の向上をはかる。これらにより、地域の同性愛者コミュニティに根ざした情報と協力を得ることが可能となるものと考えられる。

（倫理面への配慮）

「日本社会学会倫理綱領にもとづく研究指針」に従い、社会正義と人権の尊重をはかった。また、地域の同性愛者グループとの協働研究体制を構築し、研究への積極的参加をはかることにより、当事者をめぐる社会的背景に配慮した研究活動の展開を行った。

C. 研究結果

【沖縄同性愛者コミュニティに根ざした当事者によるHIV感染予防当事者団体の設立】

沖縄の同性愛者を対象とする当事者のHIV感染予防団体「なんくる」を平成20年4月に設立した。地域の当事者によるNGO団体の設立により、彼らとの協働体制が可能となり、Hard to Reach 層である沖縄の同性愛者コミュニティへの感染予防介入が可能となった。

【沖縄県のゲイスポット規模に関する調査】沖縄のゲイスポット規模を明らかにし、感染予防対象規模を検討した。同性愛者コミュニティで活用されているゲイスポット（ゲイバー・ハッテン場）の全国ガイドブックにより、全国のゲ

イスポットを抽出し、それをもとに総務省統計局「人口推計」の都道府県別男性人口により分析を行った。沖縄県は、人口規模と比較して、東京都に次いで全国 2 番目にゲイスポットが多く存在していることが明らかとなった。

【沖縄県内ゲイバーの実数調査】

沖縄県内のゲイバーの実数を明らかにし、感染予防啓発活動に資するため「なんくる」の協力により、沖縄県内のゲイバーの実数を検討した。<沖縄本島>那覇市 30 軒・沖縄市 4 軒<宮古島>1 軒<石垣島>3 軒(平成 21 年 1 月現在)。また同時に、アメリカ軍人・軍属の同性愛者が多く集まるゲイバーが存在していることが明らかとなり、感染予防対象層としてのアメリカ軍人・軍属の課題が浮上した。また、離島におけるゲイバー数が多いことも明らかとなったことから、離島対策の課題も浮上した。

【同性愛者コミュニティの属性調査】

沖縄県内の大規模なゲイのテニスイベントへフィールドワーク調査を行った。主催者による大会参加登録者の居住地属性は、次の通り。沖縄県内 99 名(47.6%)・東京都 68 名(32.7%)・福岡県 11 名(5.3%)・それ以外 30 名(14.4%)。県外からの観光客、とくに大都市圏である東京と沖縄の関係性が強いことが明らかとなった。

【感染予防啓発イベントの実施】

沖縄県内の同性愛者コミュニティにおける HIV 感染予防啓発を行うため、同性愛者を対象に同性愛に関する映画上映会を 3 回、那覇市内において開催し、同時に感染予防のための資材配布、情報提供を行った。

【沖縄の同性愛者の特徴調査】

非大都市圏である沖縄県において生活する同性愛者の生活の特徴は、どのようなものであるのか。非大都市圏において、その社会的背景に十分に考慮した予防介入を行うため、沖縄の同性愛者の特徴を明らかにするため、沖縄県で生活する同性愛者当事者からライフストーリーの聞き取り調査を行い、また比較対象として関東地方で生活する同性愛者当事者からライフストーリーの聞き取り調査を行った。

【ゲイバー・ゲイイベントへの予防資材配布調査】

「なんくる」と協働して、沖縄県の同性愛者コミュニティの社会的背景に配慮したオリジナルな HIV 感染予防資材(オリジナルパッケージコンドーム)を開発し、ゲイイベントやゲイバーへの配布を実施し、その配布数調査を実施した。平成 21 年 3 月現在までで、協力関係を築けたゲイイベント 3 つにおいて配布し、また、離島を含む沖縄県のすべてのゲイバーと協力関係を築き、配布することができた。なお、ゲイバーへはコンドームを常時置かせて頂き、原則として毎週 1 回補充を行うという体制を確立した。このコンドーム補充活動では、「なんくる童」という同性愛者の若者グループを発足させ、コンドーム補充だけではなく、ゲイバーとの協力関係維持、健康情報の提供、相談、要望受付などを行っている。

D. 考察

非大都市圏である沖縄県において、なぜ HIV 感染が、とくに男性同性間において拡大しているのか。その理由や社会的背景に関する研究は、これまで存在しなかった。しかし、本研究により、沖縄県のゲイスポットの規模が、人口比では東京都に次いで 2 番目であることが明らかとなった。離島のゲイスポットも活性化しており、離島対策も重要である。沖縄県は観光県であることから、毎年多くの観光客が訪れており、同性愛者も例外ではない。

観光客にとっては日常的な生活空間・人間関係と異なる空間となることから、解放的な気分になり、性行動が盛んとなることが考えられる。また、沖縄の同性愛者にとっては、非大都市圏であることから日常の生活空間・人間関係は狭く、性行動を起こすことのハードルが高いが、観光客は、その狭い日常の生活空間・人間関係の外部の存在である。それら相互関係により、性行動が盛んになるものと推測される。

また、非大都市圏における当事者主体の予防介入は、人材・社会資源などの面において大都市圏とは大きな相違があり、大都市圏における人材・社会資源を活用しながら、非大都市圏を支えなければ、単独での活動を維持することは難しいことが示唆された。

E. 自己評価

1）達成度について

研究計画の初年度の計画は、ほぼ達成することができたものと考えられる。また、当事者団体、コミュニティとの信頼関係の構築に成功したことから、研究2年目、研究3年目に予定していた HIV 感染予防啓発資材の開発と提供などを行うことができた。

2）研究成果の学術的・国際的・社会的意義について

男性同性間において HIV 感染拡大が急速な進む沖縄県において、感染予防のための活動・研究はほかにない。

また、非大都市圏を対象とした感染予防介入に関する研究は初めてであり、今後の非大都市圏に対する感染予防研究に資するものであると考えられる。

3）今後の展望について

研究初年度において実施した研究事業を継続的に実施し、また当事者組織が今後、継続的に活動を行うための基盤研究を実施する。また、(1)今後、予防対象として浮上した観光客・アメリカ軍人・離島への対策研究を行い、(2)同性愛者当事者である若者グループ「なんくる童」が形成出来たことから、個別施策層である同性愛者の若者層への感染予防介入も可能となっており、若者層への感染予防介入を行う。また、感染予防活動を実施していくにあたり、HIV 陽性者への支援を視野に入れた活動を展開するものである。

E. 結語

沖縄県において男性同性間の HIV 感染が広がっている原因を、沖縄県内だけに見出すことは難しい。沖縄県は、日本を代表する観光県であり、日本全国から観光客が訪れている。それは同性愛者も例外ではない。そのため、日本全国で HIV 感染拡大が続く男性同性間性的接触の中継地点になっている可能性も示唆されることから、沖縄県における男性同性愛者への HIV 感染予防介入に関する研究は、沖縄県民に対する予防対策のみならず、日本全国の HIV 感染予防に資するものと考えられ、継続的な感染予防介入研究が重要である。

F. 発表論文等

（口頭発表）-国内

国内

1）加藤慶, GIS による MSM 産業の社会構造分析, 日本エイズ学会, 2008 年, 大阪.

2）加藤慶, 大都市圏におけるセクシュアルマイノリティの若者の「生きづらさ」とは, クイア学会, 2008 年, 広島

G. 知的所有権の出願・取得状況

なし

調査研究報告

厚生労働科学研究費補助金 エイズ対策研究事業
沖縄県における男性同性愛者へのHIV感染予防介入に関する研究

沖縄県の概況について

研究代表者：加藤　慶（横浜国立大学大学院環境情報研究院）

研究要旨

非大都市圏である沖縄県において、なぜHIV感染者数の増加が、とくに男性同性愛者においてみられるのだろうか、その理由はなぜか。これらの問題にアプローチし、沖縄県におけるHIV感染予防介入を効果的に実施するにあたっては、地域の特性を把握したうえで地域に根ざして研究を行うことが重要であると考えられる。そこで、まずは沖縄県の概況をおさえておく。

A. 人口

沖縄県の人口は、2009年3月1日現在で、138万1,729人である(2009年3月26日・沖縄県公表「沖縄県推計人口」による)。平成17年厚生労働省「人口動態統計」による合計特殊出生率では、都道府県別で日本全国1位を示し、14歳未満の人口割合も全国1位である。

総人口	1,381,729人
男	676,690人
女	705,039人
世帯数	519,702世帯

B. 地理

沖縄県は、日本最西端に位置する我が国唯一の離島県である。沖縄本島を中心とする琉球諸島(沖縄本島・宮古島諸島・八重山諸島)により構成されており、有人・無人をあわせて160余の島を有している。そのため沖縄県の県域は広く、本州の2/3の広さに相当しており、南北に約400km、東西約1,000kmに及ぶ。沖縄本島・那覇市から八重山諸島・石垣島までの距離は約400kmあり、これは東京-大阪間に相当する距離である。

県内には鉄道が存在しておらず、自動車と飛行機が主要な交通手段となる。首都・東京都から沖縄本島までは約1,700km離れており、空路による東京・羽田空港から沖縄・那覇空港までの飛行時間は約2時間20分である。

面積は、2,275kmであるが、その約11%は、米軍基地によって占められ、日本全国の米軍基地施設面積の約75%が沖縄県内に存在しているという特徴がある。

C. 歴史

沖縄県は、さまざまな政府による統治が行われてきた複雑な歴史的経緯をもつ。

江戸幕府将軍・徳川慶喜により1867年に大政奉還が行われ、続く明治政府による廃藩置県(1871年)、及び琉球処分(1879年)により沖縄県が設置されるまで、沖縄は琉球王府によって統治される琉球王国であった。

第二次世界大戦によりアメリカ軍が進攻し、沖縄県では多数の戦死者が出ており、その総数は現在でも不明である。

第二次世界大戦の終結後、沖縄県はアメリカ軍の管理下におかれ、1950年の軍政下に沖縄群島政府・宮古群島政府・八重山群島政府が成立。その後、1952年に政府統一され、琉球政府(首都:那覇市)が誕生し、1972年の本土復帰まで、アメリカ軍政下の琉球政府による統治が行われていた。

本土復帰後の1975年から1976年にかけて、沖縄県本土復帰記念事業「沖縄国際海洋博覧会」が、沖縄本島北部の国頭郡で開催される。この海洋博には349万人が訪れ、それを機会としてそれまで戦争のイメージでとらえられていた「沖縄」が、「青い海」のイメージへと転換したことが指摘されている(多田治『沖縄イメージの誕生——青い海のカルチュラル・スタディーズ』,東洋経済新報社, 2004)。この海洋博開催以降、沖縄は、観光との密接な関係性が今日まで構築されるに至っている。

D. 産業・経済

2009年2月に公表された「平成18年度県民経済計算」(内閣府経済社会総合研究所国民経済計算部)によれば、沖縄県の名目・県内総生産は2006年現在3兆6876億2,000万円である。沖縄県の「労働力調査」によれば、県民の失

業率は2009年1月時点で7.6%であり、この数値は日本全国 1 位の失業率の高さである。このような経済的背景から、本土への季節労働も珍しいものではなく、人の移動が盛んであることが指摘できる。

沖縄県の産業構造は、第三次産業が他の都道府県と比較して高いという特徴があり、東京都に次いで全国 2 位となっている。これは、沖縄県が観光立県であることを理由とするものであると考えられる。

E.観光客の動向

沖縄県は、観光立県であり観光業は主要産業の一つに数えられ、その動向は沖縄県の社会システムに大きな影響がある。

本土復帰をした 1972 年には、44 万人であった観光客数も、1975 年の沖縄海洋博博覧会開催時に156万人と増加し、2006年に年間560万人を達成して以降、増加傾向が続いている。

これらの背景には、沖縄県による「沖縄県観光振興計画」や「ビジットおきなわ計画」に基づく観光振興施策の展開があるものと考えられる。

参考文献

沖縄県知事公室広報課『沖縄県の概況』沖縄県,20

沖縄県における当事者グループの組織化とHIV感染予防活動・ケアに関する研究

研究代表者：加藤　慶（横浜国立大学大学院環境情報研究院）
研究協力者：柳田敏孝（なんくる）金城健(なんくる）松澤仁璽(なんくる)

研究要旨

沖縄県における男性同性愛者へのHIV感染予防介入を行うにあたって、研究者単独による介入ではなく、沖縄で生活するゲイの当事者団体と協同による介入が有効であるものと考えられる。そこで、沖縄県で生活する男性同性愛者の当事者グループを組織化し、育成をはかりながら、彼らとの協同体制による感染予防介入の実施を行った。

A.研究目的

沖縄県における男性同性愛者へのHIV感染予防介入を行うにあたって、研究者単独による介入ではなく、沖縄で生活するゲイの当事者団体と協同による介入が有効であるものと考えられる。そこで、沖縄県で生活する男性同性愛者の当事者グループを組織化し、彼らとの協同体制による感染予防介入の実施を行う。

B.研究方法

研究方法として、当事者と研究者の協同体制による研究を可能とするアクションリサーチを採用した。この手法の特徴は、研究者が単に研究の関心だけを目的に実施するのではなく、当事者自身にとっても意味のある研究となるように研究デザインを設計することに特徴がある。とくに、これまで研究者による一方的な調査･研究活動を対象者に対して行う研究から、当事者が参加して、自ら行うという研究手法であり、そこでは研究データの客観性を意識するのではなく、当事者自身のエンパワメントを意識して行うものである。

C.研究結果

1.当事者グループ「なんくる」の組織化

平成20(2008)年4月に、沖縄県に住む男性同性愛者の当事者グループであるCBO(Community Based Organization)として、「なんくる」が誕生した。この「なんくる」は、沖縄県内でHIVに関心をもっていた男性同性愛者の当事者を組織化し、誕生したものである。

男性同性愛者に関するHIV感染予防介入の実施にあたって、これまでの厚生労働科学研究・エイズ対策研究事業(主任研究者:市川誠一)により、当事者主体によるHIV感染予防活動が行われてきた先行研究事例があり、本研究の実施にあたっても、当事者主体のHIV感染予防活動を実施することを目的に、当事者による「なんくる」との協同体制により、沖縄県に関するHIV感染予防研究を行うものである。

2.HIV感染予防に取り組む当事者の人材育成を目的とする研修の実施

当事者CBOによるHIV感染予防活動を行うためには、その活動を行うことのできる人材の育成が重要である。そこで本研究では、「なんくる」による男性同性愛者・MSM向けHIV感染予防活動を効果的に行うことを目的に、下記の研修を実施した。

(1)厚生労働科学研究・エイズ対策研究事業(研究代表者:市川誠一)及び、厚生労働科学戦略研究(研究リーダー:市川誠一)によりすでに、CBOによるHIV感染予防活動が実施されている東京都及び大阪府地域において、「なんくる」活動メンバーを対象とした人材育成研修を実施した。これにより、沖縄県で活動する「なんくる」メンバーの当事者がこれまでの研究知見を身をもって知ることが可能となり、沖縄県における活動展開のイメージをつかむことが可能となった。

(2)厚生労働科学研究・エイズ対策研究事業「地域におけるHIV陽性者等支援のための研究」班(研究代表者:生島嗣)より、生島嗣氏

を沖縄県へお招きし、研修を実施した。この研修では、「なんくる」メンバー及びHIVに関心を寄せる男性同性愛者当事者を対象に、これまでの経験・研究知見をもとに沖縄県の現状に対して求められるHIV予防・ケア活動の方向性についてお話いただいた。これにより、社会資源の乏しい沖縄県において、内地と比較して何が必要であるのかを「なんくる」メンバー自身が知ることが可能となり、活動の方向性を確認することが可能となった。

(3)沖縄県のHIV感染状況やHIVに関する基礎知識を、「なんくる」自身が学び、その知識をゲイコミュニティに還元することを目的として、HIV診療拠点病院である琉球大学医学部附属病院第1内科医師である仲村秀太氏をお招きし、複数回にわたる勉強会を開催した。これにより、「なんくる」がHIV/AIDSに関する知識を獲得することが可能となり、県内のHIV陽性者の動向などを踏まえた活動の展開が可能となった。

3.HIV感染予防イベントの開催

沖縄県内のHIV感染者数は増加傾向にあり、その新規陽性者の9割近くが男性同性間性的接触を理由とするものである。そのため、ゲイを対象とした予防活動とHIV陽性者を受容するゲイコミュニティ形成は急務である。

そこで、HIV/AIDSが決して他人事ではなく、HIV陽性者は「もうすでに一緒に生きている」ことをリアルに実感し、HIV感染予防とコミュニティ形成をはかることを目的として、2種類の形式の異なるイベントを開催した。1つは、HIV陽性者やその家族、パートナーの手記を読み、そして聞くことによってHIVをより身近なものと感じてもらうイベント「Living Together Cafe -ryukyu」である。もう1つは、さらに気軽に当事者の参加を見込める「映画上映会」を開催した。これらのイベントでは、ゲイの当事者・非当事者に多く出演していただくことで、その友人、知り合いのゲイなどにもHIVに関するメッセージがより浸透しやすいように働きかけた。 これにより、コミュニティ側からの陽性者への理解促進をはかることができ、沖縄県におけるコミュニティからのケアの可能性を開拓することができた。

☆「Living Together Cafe –ryukyu」の概要

ー県内ミュージシャンによるライブと手記朗読ー

開催日時・場所:２００８年１２月７日１５：００より

会場:ゲイバー「bar３９」(沖縄県那覇市)

来場者２２名・出演者７人・スタッフ８人・計３７名

・ライブ&朗読者

川村健一（三線奏者）

Tsuyoshi（ミュージシャン）

大城治（声楽家）

それぞれ２０分間のライブを行っていただき、その後、手記の朗読をしてもらった。それぞれのライブとライブに間にブレイクタイムを持ち、来場者が雑談の中でHIVに関する感想を話すことが可能な空間と関係性の形成をはかっている。

・エイサー&手記朗読

沖縄新虹(おきなわあらぬーじ)（沖縄の伝統芸能であるエイサーのゲイグループ)によるエイサーの披露と、手記の朗読を行った。また、三線奏者である川村さんにも朗読をしていただいた。

・朗読

沖ちゃん（bar39マスター）東江さん

会場となったゲイバーのマスターや参加者に朗読を行っていただいた。

今後の課題として、当日は会場には入りきれないほどの集客はできているが、今後は、さらに大きな会場でイベントの開催を行う場合の広報手段を検討する必要があると考えられた。

☆映画上映会イベントの開催

同性愛、性的少数者に関係する映画の上映会の開催を行い、HIV/AIDSに関する予防メッセージを浸透させた。また、沖縄県における性行動調査データを得るための量的調査を実施した。この調査結果については、別項にて報告する。

この映画上映会の概要は、次のとおりである。

◆第1回映画上映会について

【Our Theater@Cafe vol. 1】

平成21年9月7日（日）

【場所】cafe プラヌラ那覇市牧志1-3-31-1

来場者 26名　スタッフ 4名

14時　開場

15時　上映スタート

17時　フリートーキングタイム

【上映作品について】

作品 ラターデイズ

(Latter Days)

監督 C・ジェイ・コックス /C. Jay Cox
製作国 米国 / USA

◆第2回映画上映会について
【Our Theater@ D-Panic vol.2】
平成21年1月16日
場所 レズビアン・ゲイミックスバー
来場者 30名・スタッフ 9名
14時 開場
15時 上映スタート
17時 ワークショップ「隣の人としゃべる」

【上映作品について】
作品 ショートバス
監督 ジョン．キャメロン・ミッチェル
製作国 米国 / USA

◆ 第3回映画上映会
【Our Theater@Club vol.3】
平成21年1月18日（日） クラブ
集客人数は35名・スタッフ8名

14時 開場
15時 上映スタート
17時 健山正男先生による講演「沖縄県内におけるHIV、エイズの現状」
17時半 ＤＪプレイタイム
(DJ:DAI)

【上映作品】
『フィラデルフィア』(原題：Philadelphia)
アメリカ／1993年

4.沖縄県ゲイコミュニティへのコンドーム配布、及びゲイバーのマスターとの協力関係の構築

沖縄県のゲイコミュニティに対するHIV/AIDSへの理解促進を推進し、さらにはHIV への感染予防をはかるため、次の手法により沖縄県内のすべてのゲイバー及びゲイイベントへのコンドーム配布を行った。

☆ゲイバーとの協力関係の形成

1)コンドーム配布は、極めて多くの人力を要するため、沖縄県で生活するゲイ当事者、とくに若者層を組織化し、「なんくる」内部に若者グループ「なんくる童(わらばー)」を形成し、この「なんくる童」により、沖縄県内のゲイバーに対して、原則として週 1 回のコンドーム配布を実施することとした。

2) 沖縄のゲイコミュニティに根ざしたコンドームパッケージデザインの開発

効果的にコンドーム配布を行うためには、沖縄県のゲイコミュニティに根ざしたコンドーム開発が必要である。そこで、沖縄県のゲイコミュニティの社会的文脈を考慮したコンドームパッケージデザインのコンドームを開発した。

なお、このパッケージは、(1)道でコンドームも落としたり、家で家族に見つかっても、ゲイだとバレないもの、(2)沖縄県の文化・風景等を活かしたものとした。

3)ゲイバーへの研究協力をお願いする挨拶まわり

ゲイコミュニティの中核はゲイバーであり、ゲイバー関係者の皆様に HIV 感染予防活動を含む本研究活動へのご理解、ご協力を得ることができるかどうかは、本研究の成否に大きな影響を及ぼす重要事項である。

沖縄県内(離島を含む)すべてのゲイバーへのコンドーム設置などの研究協力を特に丁寧にお願いするため、すべてのゲイバーに「なんくる童」を中心とした「なんくる」メンバーを派遣し、承諾を得た。そのうえで、トイレやカウンターにコンドームを入れるボックスを設置させていただいた。

4)原則として週 1 回のコンドーム配布活動

「なんくる童」によるゲイバーへのコンドーム配布を 12 月末より実施した。この活動は、原則として週 1 回、沖縄本島のすべてのゲイバーをまわり、事前に設置したコンドーム入れにコンドームを追加補充するものである。また、石垣島・宮古島については、定期的にゲイバーと連絡をとりあい、郵送によりコンドームの補充を行った。この「なんくる童」によるコンドーム配布活動は、単にコンドームを補充することだけが目的であるわけではない。ゲイコミュニティに根ざした HIV 感染予防活動を効果的に行うためには、ゲイコミュニティの中心であり、キーパーソンであるゲイバーのマスターの皆様の協力が不可欠である。そこで、ふだんからゲイバーのマスターと「なんくる」が接触する機会をもうけることで、相互の協力関係の形成をはかることを目的ともしている。

これにより、沖縄県内すべてのゲイバーにコンドームを設置することを可能とした。

☆ゲイイベントへのコンドーム配布

沖縄県内では、さまざまなゲイのクラブイベントが催されており、そこでは多くの出会

いなどもあり、性交渉とも結びつくことが想定される。そこで、それぞれのクラブイベントの主催者に協力を依頼し、イベント会場のトイレにコンドームを置かせていただき、配布を行った。

なお、ゲイバー、及びゲイイベントにおける月ごとのコンドームの配布数は表 1 のとおりである。12 月と 1 月のゲイバーへのコンドーム配布数が特に多いのは、すべてのゲイバーへのコンドーム設置を開始したことにより、大量のコンドームを一時的に配布・設置したからであり、その後の月は、設置・配布したコンドームのうち、なくなった分を追加補充した数だからである。

D. 考察

当事者グループ「なんくる」を組織化したうえで、ボランティア体制による沖縄県内全土を対象とした HIV 感染予防介入活動の実施を初年度において開始することが可能となっている。これは、研究者と当事者グループの関係性構築に成功しているからこそ可能となったものである。

沖縄県は非大都市圏であり、当事者グループを組織化するうえで、人材が限られているという課題が多い。感染予防活動を支えるのは、人材であり、かつさまざまなスキルやコミュニケーション能力、情報活用能力を有する者であると考えられる。沖縄県は非大都市圏であることから、人材が限られており、沖縄県内の人材のみですべてを行うことは不可能である。

そこで、大都市圏の人材・社会資源を活用し、非大都市圏の活動を支えることが極めて重要であることが示唆される。

E. 結語

研究者が単に研究の関心のみで研究を実施するのではなく、地域の当事者グループを組織し、彼らとの協同体制をとった研究を実施することで、地域に根ざした活動を行うことが可能になるものと考えられる。

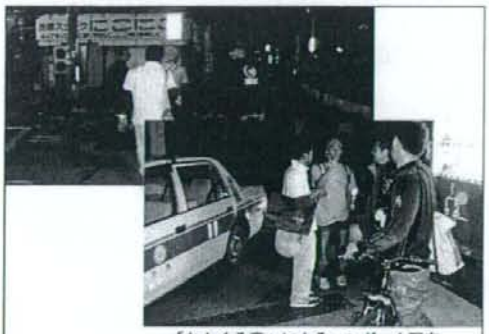
F. 発表論文等

なし

表 1

	2008 年 11 月	12 月	2009 年 1 月	2 月	3 月
クラブイベント	475	0	198	−	200
スポーツイベント	148	−	−	−	−
なんくる主催イベント	33	36	44	−	0
ゲイバーへの配布	−	1013	2774	930	608
合計	656	1049	3016	930	808

• 設置率100%（平成21年3月現在）



「なんくる童」によるコンドーム配布

クラブイベント会場のトイレに
設置したコンドーム

Living Together Café –ri vki vLイベント風景

ゲイテニス大会の光景

なんくる主催　ゲイ映画上映会@沖縄県・那覇市 の様子

厚生労働科学研究費補助金 エイズ対策研究事業
沖縄県における男性同性愛者へのHIV感染予防介入に関する研究

沖縄県のゲイコミュニティに関する研究

研究代表者：加藤　慶（横浜国立大学大学院環境情報研究院）

研究要旨

沖縄県のゲイコミュニティは、どのようなものなのか。男性同性愛者へのHIV感染予防介入を行うにあたって、そのコミュニティの構造を検討しなければ、効果的な予防介入を実施することはできない。そこで、沖縄県のゲイコミュニティを対象に参与観察を行い、その結果を記述する。参与観察の結果により、沖縄県のゲイコミュニティの中心は、沖縄本島那覇市であることが明らかとなった。また、離島である宮古島・石垣島においてもゲイコミュニティが確認され、沖縄本島沖縄市では米軍人・軍属の男性同性愛者の存在も明らかとされた。沖縄のゲイコミュニティの産業種の全体や性好観などが明らかともなり、感染予防対策の対象を検討するうえでの基礎情報を得ることができた。

A. 研究目的

沖縄県における男性同性愛者へのHIV感染予防活動を実施するにあたり、そのゲイのコミュニティがどのようなものであるのかを押さえておく必要がある。そこで、沖縄県内で生活する男性同性愛者の当事者グループである「なんくる」の協力を得て、沖縄県内のゲイコミュニティのフィールドワークを行った。本稿では、筆者の参与観察に基づいて、沖縄県内のゲイコミュニティについて以下の記述を行うものである。

B. 研究方法

筆者が沖縄のゲイコミュニティを参与観察し、そこで得られた情報を記述する。そのうえで、沖縄県の男性同性愛者当事者団体「なんくる」のメンバーによるネイティブチェックを受け、記述の信頼性を確保した。

なお研究の実施にあたっては、日本社会学会研究指針にもとづく研究指針を遵守し、社会正義と人権の尊重に努めた。

C. 研究結果

1. 地理

那覇市(沖縄本島・南部)

沖縄県内のゲイコミュニティの中心は、沖縄本島・那覇市である。沖縄の観光産業の中心でもある国際通りの近くに、ゲイバーが集積している地域があり、沖縄県内における男性同性愛者同士のコミュニケーションの中心的地域である。ゲイバーの数は2009年1月現在で30軒である。

また、ゲイのクラブイベントも月1回程度の頻度で開催されており、このゲイバー地域、もしくはその近隣のクラブイベント会場において開催されている。

施設系ハッテン場は、ゲイバー地域にはないが、那覇市内に2カ所・3店舗があり、ゲイバーを利用する層と一部重なりつつも、独立した客層を確保しているようである。

沖縄市(沖縄本島・中部)

沖縄市は、沖縄本島の中部に位置している。那覇市のゲイバーほどの規模ではないものの、ゲイバーの集積地があり、4店が存在している。

沖縄市は、米軍基地の街としても知られており、基地外においても、多くのアメリカ軍人・軍属と、日本国民がともに生活している。そのため、沖縄市のアメリカ軍基地外には多くのアメリカ軍人・軍属の同性愛者が集まるゲイバーがあり、多くの日本人の同性愛者との交流が確認される。しかし、1993年クリントン政権下において法制化されたDon't ask Don't tell policyにより、アメリカ軍人が自らの性的指向、すなわち同性愛であることを表明してはならないこととなっており、また、他者がアメリカ軍人に性的指向を質問することも禁じられている。もし、アメリカ軍人の性的指向が明らかとなった場合、当該アメリカ軍人は除隊しなければならない。アメリカ軍基地外である日本領土内において、そのアメリカ法が日本人に適用されるものではないが、アメリカ軍人の同性愛

者自身に対しては大きな影響力を有し、アメリカ軍人の同性愛者に関する実態にアプローチすることが困難であることから、HIV 感染予防介入を行ううえでの障壁となっている。

宮古島市(宮古島)

宮古島のゲイ産業は、沖縄県内で最も規模が小さく、ゲイバーが1店、喫茶店併設型・ゲイ専用ゲストハウスが1軒ある。

沖縄県は、東京や大阪などの大都市圏と比べて、地域の閉鎖性が極めて強い。そのために沖縄県で生活する同性愛者の多くが、地域の人々に同性愛者だとわからないように隠れて生活するという生活パターンをとろうとする意識が極めて強い。そのため、ゲイバーの存在は地域の同性愛者当事者ではない人々には隠されており、場所などの詳細な情報は同性愛者の当事者間によってのみ共有され、外部に漏れないよう慎重に取り扱われている。これは、その地域で生活する当事者にとって、同性愛に関する情報が非当事者にわかってしまうと、自らの生活基盤そのものにかかわる極めて深刻な問題が発生する可能性があるからである。このような理由から、本研究報告書では、地域に関する詳細な情報を記すことを控えたい。

石垣市(石垣島)

石垣島のゲイ産業は、島の人口規模から比較すると大きいものであり、ゲイバーが3軒ある。宮古島と同じく、東京や大阪などの大都市圏と比べて、地域の閉鎖性が極めて強い。そのために沖縄県で生活する同性愛者の多くが、地域の人々に同性愛者だとわからないように隠れて生活するという生活パターンをとろうとする意識が極めて強い。そのため、ゲイバーの存在は地域の同性愛者当事者ではない人々には隠されており、場所などの詳細な情報は同性愛者の当事者間によってのみ共有され、外部に漏れないよう慎重に取り扱われている。これは、その地域で生活する当事者にとって、同性愛に関する情報が非当事者にわかってしまうと、自らの生活基盤そのものにかかわる極めて深刻な問題が発生する可能性があるからである。このような理由から、本研究報告書では、地域に関する詳細な情報を記すことは控えたい。

2.沖縄ゲイコミュニティでしばしば語られる男性の好みのタイプの特徴

沖縄のゲイコミュニティにおいて、しばしば語られる男性の好みのタイプは、「薄い顔をした、毛深くない色白の人」である。一般的に「沖縄人」(ウチナンチュ)と呼ばれる、伝統的な沖縄の血脈を受け継ぐ人々にみられる特徴は、色黒で、顔立ちの彫が深く、また毛深いとされるが、沖縄のゲイコミュニティで最も支配的な好みのタイプは、そのような沖縄人男性の特徴とは正反対のものであり、ゲイコミュニティにおいて一般的に「ないものねだり」と語られる。このような沖縄ゲイコミュニティにおいて支配的な男性の好みのタイプを背景に、「薄い顔をした、毛深くない色白の人」が多い本土のゲイ男性が好まれる傾向が強い。

また、観光客など、沖縄県外からのゲイの短期滞在者は沖縄のゲイコミュニティにおいて注目される傾向がある。その理由としては、前述したような好みのタイプに合致するということもあるが、それとともに、地域の限られた人間関係の中で生活する沖縄のゲイにとって、日常生活上の利害関係が生じにくく、また「目新しい」と感じられることもあげられる。

3.沖縄ゲイコミュニティにおける HIV/AIDS の位置づけ

沖縄のゲイコミュニティにおいては、HIV/AIDS は、どのような位置づけなだろうか。理解されるべき存在であるのか、口にすることも忌まわしい、忌避されるべきものなのだろうか。HIV/AIDS が、ゲイコミュニティにとってどのような位置づけであるのかを把握することなしに、効果的な対策を実施することはできない。

「なんくる」のメンバーによれば、沖縄で生活する地元のゲイが、沖縄のゲイバーにおいて HIV/AIDS を口にすることは忌避され、極めて難しいという。また、東京や大阪などの大都市の問題であり、非大都市である沖縄には直接関係がないこと、他人事であるという認識も強いという。

このようなゲイコミュニティにおいて、HIV 感染予防活動を行うことはとても難しく、地元のゲイの当事者で構成される「なんくる」にとっても難しい。もし、無理に HIV 感染予防活動を行えば、「なんくる」そのものがゲイコミュニティ内部で孤立してしまいかねないという指摘もあった。

そこで、ゲイコミュニティにおいて、HIV 感染予防の活動を行うには、相当に戦略をたてたうえで、実施する必要があるとも「なんくる」のメンバーによって語られた。

4.沖縄県のゲイ産業

沖縄県のゲイ産業は盛んに営まれおり、多種多様な産業が成立しているのが特徴であり、下記の表のように分類できる。なお、非常設型と分類されるスポーツイベントやクラブなどのイベントの主催者はバーであることが多い。

常設型	飲食業	喫茶店
		バー
	性風俗産業	施設系ハッテン場
		ウリ専
		ゲイマッサージ
	観光業	ゲストハウス
		ダイビング
	小売り業	ゲイビデオショップ
		男性下着ショップ
	癒し業	マッサージ
非常設型	スポーツ	テニス大会
		バレーボール大会
	イベント	クラブ
		ビーチパーティ

沖縄県最大の那覇市内のゲイバー街